

立命館大学



取材担当は左から
仙田 真也(せんた しんや)さん
齋藤 光(さいとう あきら)さん



衣笠夏まつり (8/26)



当日、大きなクスノキがある校庭には、手作りの櫓などがお目見え。次第に浴衣姿の人々が集まり、賑やかな雰囲気。最後は恒例の花火が打ち上がり、楽しいひとときを終わりを告げました。

その後も撤収作業が残っています。朝早くから準備で忙しかった会場は、あっという間に普段の校庭に。何やら切ないやはらかないやら。消防団員として準備・撤収作業を担った私にとっては、この瞬間こそが本当のまつりの終わりでした。地域の皆さんの思い出作りを陰ながら支えることができたことが、私の今夏の一番の思い出です。

健康すこやか教室「ミニ運動会」in金閣(10/14)



スタッフを含め、総勢44人が参加されるこのイベント。トリを飾る最後の種目「玉入れ」では、1回目の勝利チームの球数が77個に。「喜寿」です。おめでとーございませうというユーモアたっぷりの司会に、会場が笑いに包まれました。2回目では、別のチームがなんと100個以上も入れ逆転勝利！「総合」では、玉入れ1球の差で勝敗が決するという接戦に、会場は熱気に包まれました。皆さんの元気なお姿を拝見し、私たちも元気になった一日でした。

かまどベンチづくりin大將軍(9/2)



日頃はベンチとして、災害時等では炊き出し用として活用できる「かまどベンチ」。「おやじの会」を中心に、地域、小学校、PTAの方々が力を合わせて製作されました。後日行われた「火入れ式」には、地元神主さんによるお祓いも。自主防災訓練では、実際にアルファ化米の炊き出しに使用されるなど、早くも大活躍です。地域の力を合わせて

作られた「かまどベンチ」は、地域に寄り添い、学区を末永く見守っていくのだと実感しました。

グラウンドゴルフ大会in柏野(12/10)

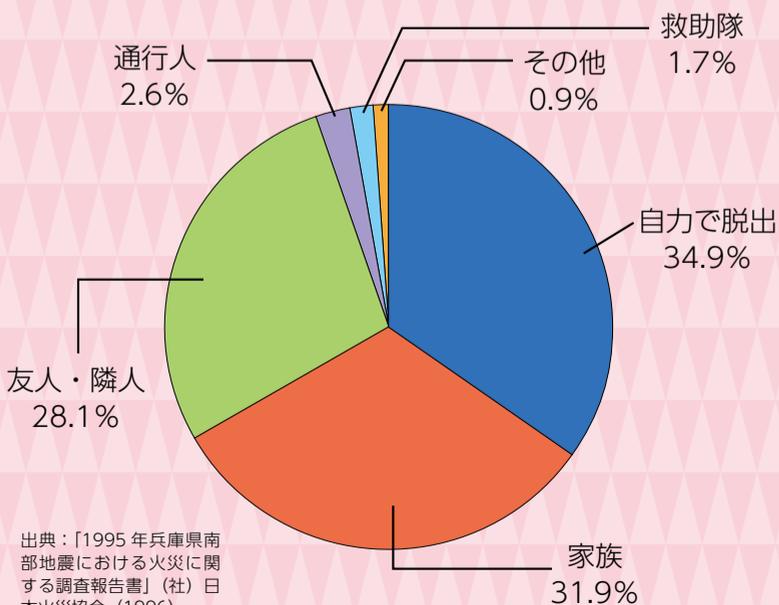


「グラウンドゴルフ大会個人戦」(柏野体育振興会主催)には、40名以上の方が参加され、校庭には朝早くから「コン」という快音が。

学区では、町内対抗のグラウンドゴルフも。各種団体から小学校の先生まで140名以上のご参加があり、老人会やアヒル会(同好会)は定期的な練習もあるとか。アヒル会のナイターにも伺いました。たが、「曲がれー」との声も。多くの笑顔がこぼれていました。楽しそうなお様子を拝見し、グラウンドゴルフが地域の皆さんに愛されていることが伝わってきました。

ご近所付き合いが、生命を助ける！！

■生き埋めや閉じ込められた際の救助について ～阪神・淡路大震災での教訓！～



出典：「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」(社)日本火災協会(1996)

「そういえば、隣のお爺ちゃんとお婆ちゃん、大丈夫かな？」

広範囲にわたり、同時に救助が必要となる大きな災害時には、公的な救助が間に合わないことも想定されます。

現に、阪神・淡路大震災(平成7年)で生き埋め等に遭った方のうち、生存して救出された方の95%は、自力または家族・隣人に助けられたというデータがあります(左記のとおり)。

日頃のご近所付き合いが、私たちの生命を救う大きな力になるんですね。

マンションだから倒壊の心配はない！ …食料などは大丈夫？

「うちはマンションだから災害でも大丈夫ー」

そんなお声を伺うことがあります。しかし、大きな災害の折、道路が寸断されて物流がストップすると、生活必需品を手にするのが難しいことも。

近くの避難所に行って、顔なじみのご近所さんに会えると、少し心が和みますね。万が一のときのことを、そして近所付き合いの大切さを、一緒に考えてみませんか？